

計画の構成

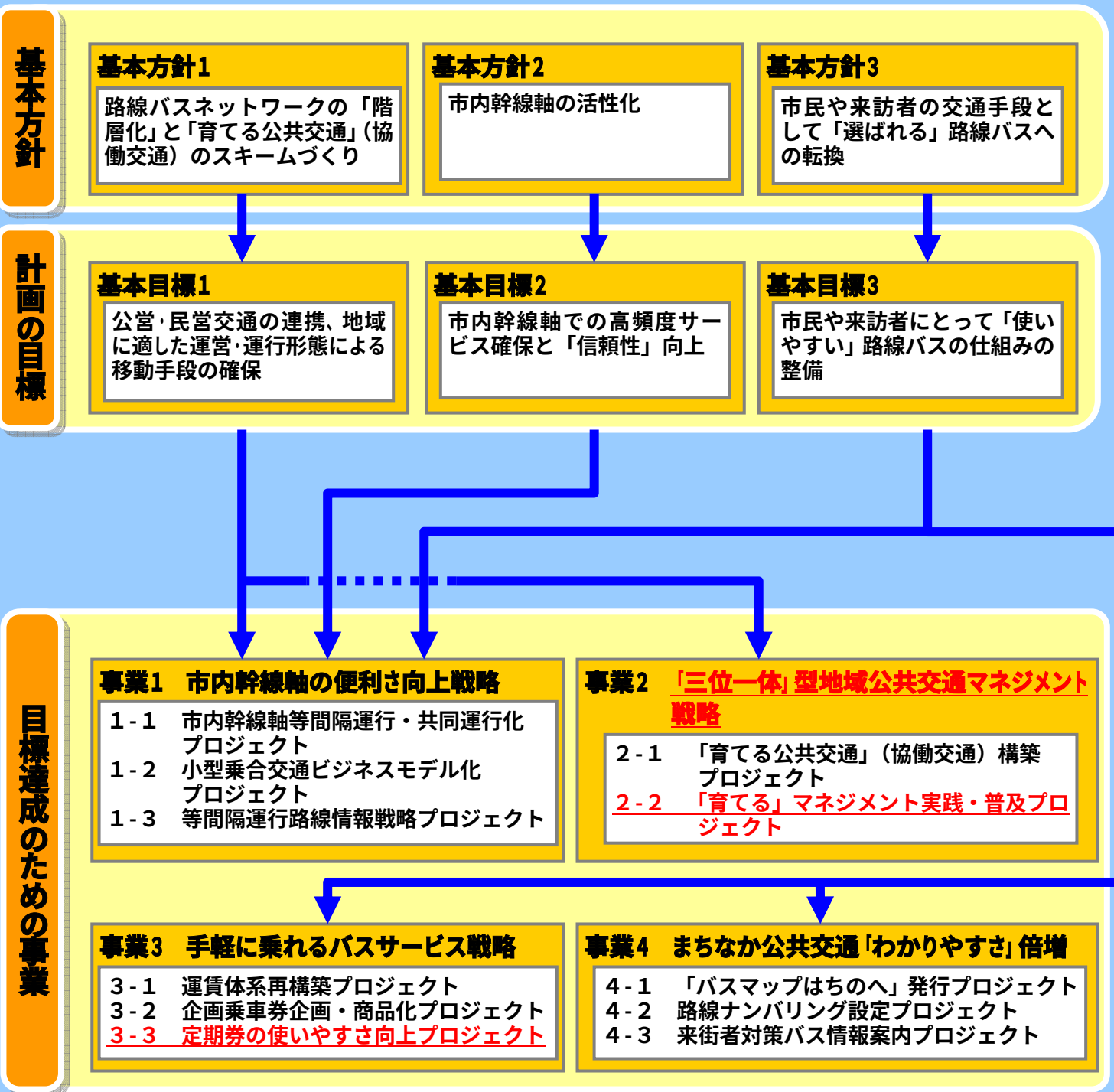
市民の皆さんが「意外と使えるね」「迷わず乗れるよ」と感じられる公共交通サービスを実現するため、八戸市内の幹線軸となる路線バスの利便性向上や手軽に乗れるバスサービス、中心街等まちなかの公共交通の「わかりやすさ」を倍増させる戦略を作成しました。

また、八戸地域・交通事業者・八戸市が三位一体で地域公共交通を育て、次世代に引き継いでいくため「育てる公共交通」（協働交通）構築プロジェクトを作成しました。

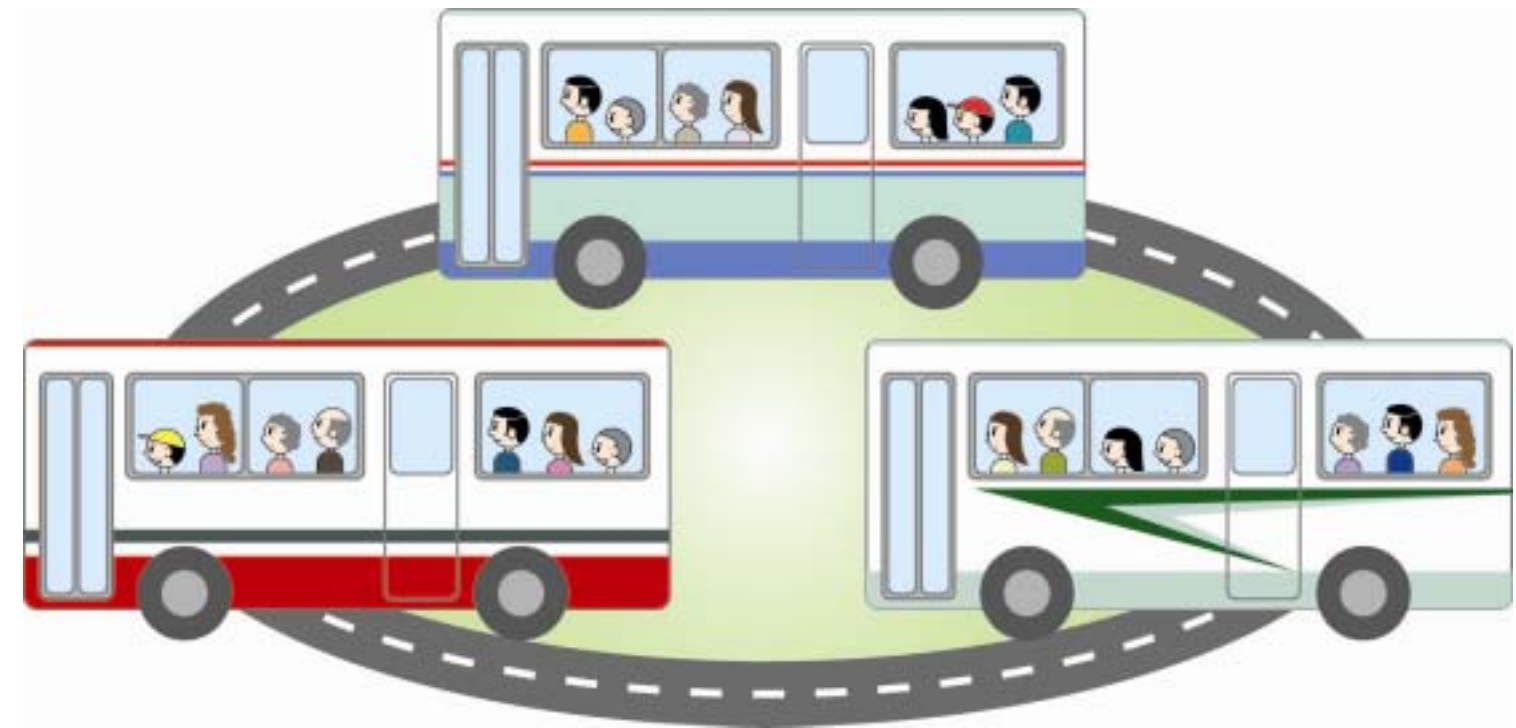
これらは、概ね平成 23 年度までに実施し、平成 24 年度以降も継続していきます。

基本理念 ～八戸市地域公共交通総合連携計画が目指すもの～

1. (クルマほどではないけれど)「意外と使えるね」「迷わず乗れるよ」と感じられる公共交通サービスを実現します。
2. 地域・交通事業者・八戸市が三位一体で地域公共交通を見つめなおし、育て、次世代に引き継ぎます。



八戸市地域公共交通 総合連携計画の概要



平成 21 年 3 月作成
平成 22 年 3 月一部変更
八戸市地域公共交通会議

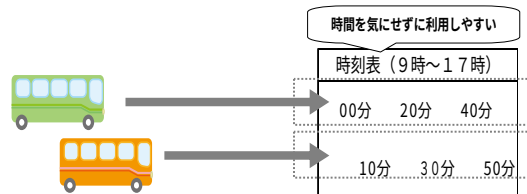
※この資料では、平成 22 年 3 月に計画変更した部分を朱書・下線により記しています。

目標達成のための事業のイメージとスケジュール

事業1 市内幹線軸の便利さ向上戦略

事業 1-1 市内幹線軸等間隔運行・共同運行化プロジェクト

○幹線路線では、利用者が利用しやすい等間隔運行の実施を検討します。



複数のバス会社による等間隔運行・共同運行イメージ例

実施主体	対象	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市交通部 南部バス（株） （八戸市）	中里線	実施	実施	評価	継続
	八太郎	検討	実施	評価	継続
	ニュータウン	検討	検討	実施	実施
	多賀付	検討	検討	実施	実施

事業 1-3 等間隔運行路線情報戦略プロジェクト

○等間隔運行路線が発着する中心街停留所などにおいて、「方面別記号（路線ナンバリング）」の掲出を行うことを検討します。

【共通時刻表の例】
八戸駅

【路線案内の例】
三日町B e F M前

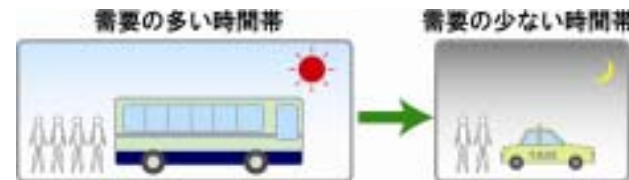
中心街（十三日町・三日町（八日町）方面） 10分おきで運行	
根城大橋経由 中心街方面	
9～17 時台	20分おきに運行 毎時 00・20・40分 発
田面木経由 中心街方面	
9～17 時台	20分おきに運行 毎時 10・30・50分 発

① 湊方面のりば 坂行・峠台団地行き	三日町 B e F M前 （八日町）
② ラピア・ピアドック方面のりば （栄町経由） 市宮・南部・十鉄	

実施主体	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市交通部 南部バス（株） （八戸市）	準備 実施	継続	継続	継続

事業 1-2 小型乗合交通ビジネスモデル化プロジェクト

○バス需要が低下する夜間等の時間帯に限定して、鉄道駅（八戸駅）や中心街から郊外団地まで路上で待機しているタクシー車両を活用した輸送を行うことを検討します。

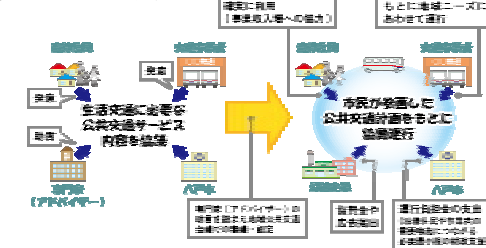


実施主体	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市 タクシー協会 （八戸市）	検討	実施 評価	実施 評価	継続

事業2 「三位一体」型地域公共交通マネジメント戦略

事業 2-1 「育てる公共交通」（協働交通）構築プロジェクト

○主に市単独補助路線など持続的な運行が難しくなっている路線を対象に、沿線住民や沿線企業などの多様な主体の積極的な参画により、「地域の生活に使える」公共交通サービスを育てていきます。



「育てる公共交通」（協働交通）のイメージ

実施主体	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市 地域公共交通会議	協議	実施 実施	継続	継続

事業 2-2 「育てる」マネジメント実践・普及プロジェクト

○「育てる公共交通」へと再編を図るのみではなく、既存のバス路線であっても、自家用車を利用できるひとたちを含めた幅広い層のひとたちに通勤などの多様な用途に有効活用してもらい、それが地域資源としての地域公共交通を育てていく意識醸成につながるよう、コミュニケーション手段を重視したモビリティ・マネジメント手法を検討・実践し、それが普及していくことを目指していきます。

実施主体	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市	検討	実施	継続	継続

事業3 手軽に乗れるバスサービス戦略

事業 3-1 運賃体系再構築プロジェクト

○運賃均一区間や 50 円刻み運賃等の設定の検討を行ない、また、運賃体系再構築に合わせた運賃表示システムの改良の検討を行います。

実施主体	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市交通部 南部バス（株） 十和田観光電鉄（株） （八戸市）	検討	準備	実施 評価	継続

事業 3-2 企画乗車券企画・商品化プロジェクト

○企画乗車券の商品化について、運賃体系の再構築に先行させて実施（試行）することを検討します。

実施主体	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市交通部 南部バス（株） 十和田観光電鉄（株） （八戸市）	企画 試行	試行 評価	実施	実施

事業 3-3 定期券の使いやすさ向上プロジェクト

○定期券利用者のニーズ等を踏まえ、「分かりやすい」運賃体系への再構築にあわせて、「フリータイプ」の通勤・通学定期券の発行の可能性について検討します。あわせて、昼間時の業務目的や帰宅時の買い物目的などにも利用可能となる仕組みを検討します。

実施主体	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市交通部 南部バス（株） 十和田観光電鉄（株） （八戸市）	検討	実施 評価	継続	継続

事業4 まちなか公共交通「わかりやすさ」倍増戦略

事業 4-1 「バスマップはちのへ」発行プロジェクト

○平成 20 年度に作成した「バスマップはちのへ」を今後も適宜更新し、観光客や市民に提供するとともに、自発的なバス利用の促進を図る「モビリティ・マネジメント※」のツールとしての活用を図ります。

実施主体	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市 八戸市交通部 南部バス（株） 十和田観光電鉄（株）	配布	継続	継続	継続

※市民一人ひとりの移動について、例えば過度な自動車（マイカー）利用から公共交通等環境にやさしい交通手段への利用に「自発的」に変化することを促す「コミュニケーション」を中心とした手法

事業 4-2 路線ナンバリング設定プロジェクト

○分かり易い方面別記号と路線番号の設定を検討します。

○バス車両のLED・方向幕のナンバリングの対応を検討します。



実施主体	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市交通部 南部バス（株） 十和田観光電鉄（株） （八戸市）	準備	実施 評価	継続	継続

事業 4-3 来街者対策バス情報案内プロジェクト

○八戸市中心市街地活性化基本計画における「まちなかに来やすくする」との基本方針に基づき、また、まちなかの観光交流施設の完成時期及び東北新幹線八戸以北延伸の時期を見据え、中心街や八戸駅、本八戸駅等において路線バスののりば案内や行先案内等の情報を提供します。

○八戸市への来訪者に対するサービス提供方策として、ホテルや飲食施設にバスマップや八戸駅線等のバス時刻表を置き、情報提供を行うことを検討します。

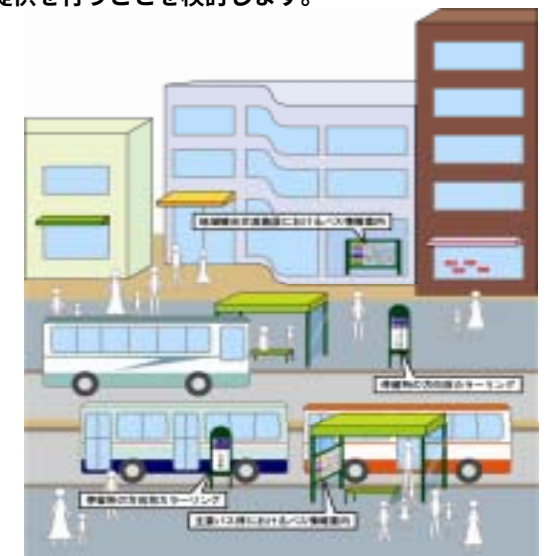


図 中心市街地におけるバス情報案内イメージ案

実施主体	21年度	22年度	23年度	24年度以降
八戸市	検討	準備 実施	継続 評価	継続 評価